

地歴・公民（平成30年度）

「倫理」	単位数	2単位	学科	普通科	学年・学級	第2学年4,5,6組 第3学年1,2,3,4組	担当	
------	-----	-----	----	-----	-------	----------------------------	----	--

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期における自己形成の課題について理解と思索を深め、人間としての在り方生き方について考えさせる。 2. 先哲の思想を知識として学ぶのではなく、人間の存在や価値などについて思索し、人生観・世界観・価値観などを形成し、自己の人格形成に努める実践的態度を育成する。 3. 生徒の個性を発揮・伸張させるとともに、平和で民主的な社会の実現に寄与する態度を育成する。 4. 生徒の当面する課題などを中心に、先哲の考え方を学び、自己の課題を積極的に解決していくための課題解決能力を育てる。
使用教科書・副教材等	高等学校 改訂版 倫理 第一学習社 テオーリア 最新 倫理資料集 第一学習社

評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・人間尊重の精神と自己形成への関心を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。 ・倫理的な諸課題についての探究的な態度を身につけ、人間としての在り方生き方への自覚を深めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に探究しようとしている。 ・良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己形成や人間としての在り方生き方に関して様々な資料を収集・整理することで、情報を主体的に選択している。 ・諸資料を自己形成のために主体的に活用し、追究した内容などを様々な方法で適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関した基本的な事柄を自己の確立の課題として理解している。 ・さらに、自己の人格形成のために生かす知識を身に付けている。

2 学習指導計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	評価の観点				考查範囲	備考(学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習時間・特別活動等との関連等)
				関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解		
第1学期	4 5	第1章 青年期の課題と自己形成 第1節 よく生きることを求めて 第2節 青年期の課題 第3節 自己の探究 ①青年期の心とからだ ②青年期の人間関係	・人間の定義をはじめとして、人生における青年期の位置づけ、特徴などについて考えさせ、青年期特有の課題であるモラトリアムとしての時期、アイデンティティの確立、自己実現の追求、自己理解の方法などについて学んでいく。	○	○	○	○	第1学期中間考査	・青年期の心理的側面については、他教科の家庭科や保健などでも学習することが多いので、学習の進度を考慮する→教科書の整理だけでなく、基本的な事項については「倫理ワークノート」の内容で整理させる。

第1学期	6	<p>第2章 人間としての自覚</p> <p>第1節 ギリシャの思想—哲学の誕生</p> <p>①哲学の形成</p> <p>②ソクラテス</p> <p>③プラトン</p> <p>④アリストテレス</p> <p>⑤ヘレニズムの思想家たち</p> <p>⑥ギリシャの哲学と私たちの生き方</p> <p>○宗教とは何か</p> <p>第2節 キリスト教</p> <p>①ユダヤ教の世界</p> <p>②イエス</p> <p>③キリスト教の発展</p> <p>④キリスト教が私たちに問うもの</p> <p>第3節 イスラーム</p> <p>第4節 仏教</p> <p>①インドの思想文化</p> <p>②ゴータマの教説</p> <p>③仏教思想の展開</p> <p>④今に生きる仏教の教え</p> <p>第5節 中国の思想</p> <p>①中国の思想文化</p> <p>②儒家の思想</p> <p>③道家の思想</p> <p>④中国思想のこれから</p> <p>○芸術と私たちの生き方</p>	<p>・パスカルの言葉を手掛かりに先人の思想を学ぶ意義について理解させる。</p> <p>・ギリシャ思想は、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの生涯と思想を中心に理解させる。また、その思想がどのように発展したのかを学ぶ。</p> <p>・哲学的なものの見方と科学的なものの見方の違いについて理解させる。</p> <p>・日本人の宗教意識や宗教が人間にとってどのような意味を持つものであるかを考えさせる。</p> <p>・世界の三大宗教であるキリスト教、イスラーム、仏教の基本的な考え方を理解させる。</p> <p>・仏教については第2学期以降の日本の思想とも深い関係性があることをとらえさせる。</p> <p>・「慈悲」と「アガペー」の違いに着目しながら両者を比較考察させる。</p> <p>・儒家、老荘思想を中心に学習し、その後の中国思想の展開についても学習を深める。</p> <p>・日本の思想「儒教の日本的展開」とも関連していることをとらえさせる。</p> <p>・芸術（絵画・音楽など）の作品を通して、芸術家の考え方や生き方を学び、人間の心にもたらす豊かさや潤いなどに気づかせる。</p>	○	○	○	○	<p>第1学期期末考查</p> <p>・「ソクラテスの弁明」などの資料を使用することで、学習の深化を図る→資料集の内容を参考にする。</p> <p>・宗教については、生徒の中には特定の信者もいることから、十分な配慮をする。</p> <p>・今日、注目されているイスラームについては偏見を与えないよう配慮する。</p> <p>・仏教については「国際社会に生きる日本人の自覚」とも関係していることに注意する。</p> <p>・中国思想については国語（古典）などに出てくる内容にも配慮する。また、「国際社会に生きる日本人の自覚」と関係していることに注意する。</p> <p>・美術全集などから選び出した作品などを鑑賞させることで、興味・関心を引き出していく。美術や音楽の教科書なども参考にする。</p>
	7							
<p>【課題・提出物等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、思想家について調べたレポートを提出させる。 ・課題としては、1章分の学習が終了した時点で「倫理ワークノート」を使用して学習内容を整理させる。 ・提出物・授業で使用した課題プリントや「倫理ワークノート」の該当箇所を整理させ、それを提出させる。 ・日頃の学習の定着度をはかるためやセンター試験対策として、「倫理ワークノート」を利用して応用問題を中心に解かせていく。 <p>【第1学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価については、考查のみで評価するのではなく、総合的・観点別の評価などを導入する。例えば、考查評価を70%とし、レポート%、課題・提出物の仕上がり状況を20%、単元ごとのミニテストを10%とする割合で評価していく（評価の観点のポイントが4つある点を考慮する）。 								

第2学期	9	<p>第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <p>第1節 日本人の風土と伝統</p> <p>第2節 外来思想の受容</p> <p>①日本仏教の展開</p> <p>②日本儒学の展開</p> <p>第3節 町人意識の目覚めと庶民思想</p> <p>①義理と人情</p> <p>②国学の成立</p> <p>③庶民の思想</p> <p>④伝統思想の成熟</p> <p>第4節 西洋思想との出会い</p> <p>①幕末の思想</p> <p>②明治の啓蒙思想</p> <p>③日本社会とキリスト教</p> <p>④社会思想の展開</p> <p>⑤近代的自我の確立</p> <p>⑥近代日本の思想課題</p> <p>○世界に生きる日本人と伝統</p>	<p>・古代日本人のものの考え方を精神風土との関係でとらえさせるとともに、宗教観・倫理観などについて考えさせる。</p> <p>・外来思想である仏教・儒教の受容、日本的仏教の特色、仏教と日本人の思想形成との関わり、無常観・美意識・武士道などにおける特色をとらえさせる。</p> <p>・儒教の日本的展開や国学、庶民の思想、農民の思想、幕末の思想、西洋文化との接触などについて理解させる。</p> <p>・西洋文化との接触後、啓蒙思想、自由民権思想、国家意識、キリスト教と近代日本などの日本人の思想形成を理解させる。</p> <p>・文学の世界においても、日本人の思想形成がどのようなものであったか、さらに明治から大正までの思想としてどのようなものがあつたかをとらえさせる。</p> <p>・西洋思想を主体的に摂取する中で、独創的な思想が形成されるようになるが、その内容について理解させる。</p> <p>・主体的に生きる人間として国際社会における役割と責任を果たす日本人としての自覚を形成させる。</p> <p>・日本思想の中の人間観について考察させる。</p>	○	○	○	○	<p>第2学期中間考査</p> <p>・「日本史A」「日本史B」などの文化学習を踏まえながらも、それとの違いに注意する。</p> <p>・地域における独自性のある教材も利用するようにする。</p> <p>「総合的な学習の時間」とも関連していることから、地域学習との関連性をはかる。</p> <p>・偏狭で排他的な考え方(エスノセントリズム)などにならないように配慮する。</p> <p>・西洋近代思想とも関連することに注意する。</p> <p>・「資料集」をできるだけ使用する。</p> <p>・「倫理ワークノート」等を使用して内容の整理を行う。</p> <p>・「資料集」「倫理ワークノート」等で整理し、理解させる。</p>
		<p>第4章 現代に生きる人間の倫理</p> <p>第1節現代の特質と倫理的課題</p> <p>第2節 人間の尊厳</p> <p>①ルネサンスと宗教革命</p> <p>②人間性の探究</p> <p>第3節 近代の科学革命と自然観</p> <p>①近代の科学革命</p> <p>②経験論と合理論</p> <p>③自然観の転換</p> <p>○自然との共生</p>	<p>・現代社会のさまざまな面を考察し、具体的な統計値を活用しながら、私たちを取り巻く状況について現状を把握させる。</p> <p>・西洋の人間観をルネサンス、宗教改革、合理的精神(ベーコンとデカルト)、社会契約説(ホッブズ、ロック、ルソー)、カントの思想などから人間尊重の精神について理解させる。</p>					<p>・「世界史B」にも取り上げられているルネサンス時代の作品などを準備する。</p> <p>・「世界史A」「世界史B」とも関連していることからその歴史的背景についてもとらえさせる。</p>

2 学 期	11	<p>第4節自由で平等な社会の実現</p> <p>①社会契約の思想 ②人格の尊厳と自由 ③人倫と自由の実現 ④功利主義の思想</p> <p>○他者危害原則と自由</p> <p>第5節 人間性の回復と主体性の確立</p> <p>①社会主義の思想 ②実存主義の思想 ③プラグマティズムの思想</p> <p>第6節 現代の思想と人間像 第7節 生命への畏敬と社会奉仕</p> <p>○差別や偏見との戦い</p>	<p>・近代市民社会の持つ矛盾や克服を課題としたヘーゲルの人倫思想、功利主義、社会主義思想などについて理解させる。</p> <p>・アメリカ合衆国における独自の思想についてとらえさせる。</p> <p>・民主社会の実現のために、あらゆる差別や偏見などの解決が求められること、またそれらとどのように関わっていくかを認識させる。</p> <p>・人間や社会の在り方の急激な変化による近代的な理性への問い直しとしての実存哲学、フランクフルト学派、構造主義など現代思想の人間観を理解させる。</p> <p>・アリストテレスの正義の考え方や社会契約説などを復習しながら、ロールズの正義論について理解させる。</p> <p>・地球的規模での環境問題や生命に関わる倫理的課題が出現していることを理解させ、その解決のために科学技術の基礎にある自然観の再検討が必要であることを理解させる。</p>	○	○	○	○	<p>第2 学 期 期 末 考 査</p> <p>・「政治・経済」に関連した人物も登場することを理解させる。</p> <p>・抽象的な概念の羅列にならないようにするとともに、現代からの視点に配慮していく。</p> <p>・環境問題や人権問題についてレポートにまとめさせたり、それをもとに発表学習を展開させたりする。</p> <p>・地域の特殊性を考慮していく。</p> <p>・「現代社会」や「政治・経済」の学習内容とも重複することをおさえておく。</p> <p>・具体的事例に即して考えさせる。「倫理ワークノート」を整理させる。</p> <p>・生命倫理では、科学技術が進歩した現代における、生と死の問題についてのディベートなど、工夫した展開を試みる。</p> <p>・「倫理ワークノート」を活用する。</p> <p>・環境倫理は「地理A」「地理B」、「家庭科」さらに「生物」などでどのように取り扱われているか配慮する。</p>
<p>【課題・提出物等】</p> <p>・1学期に準ずる。</p> <p>・センター試験対策として、「倫理ワークノート」等で過去問などを解かせていく。</p>								
<p>【第2学期の評価方法】</p> <p>・評価については、考查のみで評価するのではなく、総合的・観点別の評価などを導入する。例えば、考查評価を70%とし、レポート%、課題・提出物の仕上がり状況を20%、単元ごとのミニテストを10%とする割合で評価していく（評価の観点のポイントが4つある点を考慮する）。</p>								

3 学 期	1	第5章 現代の諸課題と倫理 第1節 生命倫理と課題 ①遺伝子操作と生殖革命 ②脳死と臓器移植 ③自己決定の医療と新しい死生観 第2節 環境倫理と課題 ①化学物質汚染と地球環境問題 ②自然との共生と環境保全・保護 ③開発と持続可能な循環型社会	・男女差別の解消などを考えさせ、フェミニズムやジェンダーの問題を考えさせる。 ・2学期の学習を踏まえ、地球環境問題などを生み出した現代社会の諸課題について考えさせるとともに、生命や自然との関わりについて考えさせる。					学 年 末 考 査	・ボランティア活動に参加した人の体験談などをもとにした話し合いなど、工夫した展開を心がける。 ・携帯電話やインターネットの経験からどのような点が問題点であるかを発表させる。
	2	第3節 家族・地域社会と課題 ①高齢者と地域社会 ②変容する夫婦と男女共同参画社会 第4節 情報社会と課題 ①電子ネットワークの諸問題 ②情報の洪水と主体性の喪失 第5節 異文化の理解と課題 ①日本に暮らす外国人と多文化共生 ②国際感覚と日本人としての自覚 第6節 人類の福祉と課題 ①平和な世界に向けて ②地球市民として ○ともに生きる	・核家族、新しい家族形態、少子高齢化、高齢社会の中での「老い」などについて考えさせる。 ・情報社会とは何か、その中でのメディア・リテラシーとはどうあるべきかなどを理解させる。 ・グローバル化した社会での生き方を考えさせ、多面的なものの方の必要性について理解させる。 *時間配当を検討した上で、テーマすべてを取り扱うのではなく、3～4つの内容を選択していくものとする。	○	○	○	○		
	3								
<p>【課題・提出物等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に準ずる。 ・センター試験対策として、「倫理ワークノート」等で過去問などを解かせていく。 <p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期の評定をもとに、1年間の生徒の活動を評価に入れる。その際、各学期ごとに4つの評価基準があるが、この内容を踏まえた評価となるように配慮する。 ・「倫理ワークノート」等の内容を整理し、解答しているかをチェックする。 									

(2) 評価規準

学習内容 (教科書の構成)	評価の観点			
	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
第1章 青年期の課題と自己形成 第1節 よく生きることを求めて 第2節 青年期の課題 第3節 自己の探究 第4章現代の青年期	・青年期の意義と自己の生き方に関心を向け、自己の課題として意欲的に探究するとともに、他者と共感で共生を大切にした自己の生き方について考えている。	・自らの体験や悩みを通して自己の課題を見出しつつも、自己の生き方の課題を他者とともに生きる生き方として多面的・多角的に考察し、幅広い視野に立って、主体的かつ公正な判断をしている。	・青年期に関する諸資料を様々なメディアを通じて収集している。 ・自己形成に向けた学習を主体的かつ適切に選択、活用、追究、考察した結果をまとめ、発表・討論することができる。	・自己の性格や適正などを理解し、人格形成に生かす知識を身に付けている。 ・人生観、世界観、価値観などの形成が必要であることを理解し、他者とのかわりから人格の形成の知識を習得している。 ・自己の確立のための課題として理解し、人格形成に生かす知識を身に付けている。

<p>第2章 人間としての自覚 第1節ギリシャの思想 第2節キリスト教 第3節イスラーム 第4節仏教 第5節中国の思想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人生における哲学の持つ意義などに関心を持ち、人間の存在や価値に関わる課題を意欲的に探究している。 ・人生における宗教の持つ意義についての基本的な課題を、自己の生き方と関係させる中で、探究し、人間としての在り方生き方について考えようとしている。 ・人生における芸術の持つ意義について、探求し、考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の存在や価値に関わる基本的な課題を見出し、先哲の思想を手掛かりとして多面的・多角的に探究し、広い視野に立って公正な判断をしている。 ・人生における宗教の意義、人間の存在や価値に関わる基本的な課題を見出すことで、「愛」「慈悲」「六信五行」などを「豊かな人生」の観点から考察している。 ・人生における芸術の意義について考察し、公正な判断をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた諸資料について基本的な課題を探究している。 ・課題を追究し、考察した過程や結果を様々な方法を駆使しながら適切に表現している。 ・人間の存在や価値に関わる基本的な課題を探究し、学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択することで活用している。 ・学習した過程や結果についてまとめ、発表することができる。 ・芸術について学習した過程や結果をまとめ、発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・源流思想としての基本的な知識を習得している。 ・キリスト教、イスラーム、仏教の基本的な内容について自己の生き方と結びつけて知識を習得している。 ・芸術の意義について理解している。
<p>第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1節 日本の風土と伝統 第2節 外来思想の受容 第3節 町人意識の目覚めと庶民思想 第4節 西洋思想との出会い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の風土や伝統への関心を持ち、日本人の原点ともいえる自然観、宗教観、倫理観などの特質について意欲的に探究している。 ・幕末から明治にかけての思想の展開について自己の在り方生き方と結びつけることで、意欲ある ・日本人の仏教・儒教の受容と理解、その後に展開されている各思想について自らの在り方生き方と結びつけた関心を持つことができる。態度が見られる。 ・代表的な日本の先哲の思想を手掛かりに、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の風土や伝統に触れながら、自己との関わりについて多面的・多角的に考察し、広い視野に立って主体的かつ公正な判断をしている。 ・日本人の宗教観と結びつけて平安仏教、鎌倉仏教及び江戸時代の思想などとの相違について主体的に考察している。 ・幕末や明治などの各時代の思想と今日の状況とを比較しながら、その違いなどについて広い視野に立って主体的かつ公正な判断をしている。 ・国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について先哲の思想を手掛かりに、広い視野に立って主体的で公正な判断をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において自然観、宗教観、倫理観などの特質を見出し、学習に役立つ情報を主体的に選択し、表現している。教科書や資料集などに掲載されている原典資料など、必要な資料について読解しようとする積極的に取り組んでいる。 ・かなり多くの先哲が登場してくるが、これらの人物について「倫理ワークノート」「資料新総合倫理」などを活用、整理しながら発表や討論を行うことができる。 ・収集した資料の中から日本人の特質などについて理解を深め、探究した内容の情報を適切に選択して活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域に見られる伝統行事などに関心を向け、学習した内容や自己との関わりの中で理・今までに学習した「仏教」「中国思想」などと、日本の仏教、儒教との違いについて自らの課題として理解している。解している。 ・古代から現代までの日本の思想について、思想の流れとともに、学習内容について十分な理解をしている。 ・日本の思想について自己との関わりからものの見方や考え方を理解し、人格形成に生かす知識を身に付けている。
<p>第4章 現代社会に生きる人間の倫理 第1節 現代の特質と倫理的課題 第2節 人間の尊厳 第3節 近代の科学革命と自然観 第4節 自由で平等な社会の実現 第5節 人間性の回復と主体性の確立 第6節 現代の思想と人間像 第7節 生命への畏敬と社会奉仕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に生きる人間として直面する諸課題を倫理的な観点から自己の課題として意欲的に考えようとしている。 ・現代社会に大きな影響を与えている諸思想について他者とともに生きる自己との関わりから意欲的に考察しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に生きる人間が直面している諸課題について倫理的観点から多面的で多角的な考察をはかり、主体的で公正な判断をしている。 ・各思想の持つ意義などについて現代との関わりから人間としての在り方生き方を探究し、主体的で公正な判断を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋思想の原典などに積極的に触れることで、諸資料を倫理的な観点から様々なメディアを通して主体的に選択し、活用している。 ・現代に生きる人間が直面している諸課題について倫理的観点から考察した過程や結果をまとめて、発表や討論などを積極的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合理的精神、社会契約説、人間尊重の精神について自己の人格形成に生かす知識を身に付けている。 ・歴史的背景や先哲の思想について、多角的な見方や考え方などその大切さを認識し、自己の人格形成に生かす知識を身に付けている。

<p>第5章 現代の諸課題と倫理</p> <p>第1節 生命倫理と課題</p> <p>第2節 環境倫理と課題</p> <p>第3節 家族・地域社会と課題</p> <p>第4節 情報社会と課題</p> <p>第5節 異文化の理解と課題</p> <p>第6節 人類の福祉と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近代から現代にかけて何が問題であるかなど、現代に生きる人間としての倫理的な諸課題に関心を向け、積極的に取り組んでいる。 ・現代に生きる人間として直面している諸課題について、積極的な関心を持つとともに意欲的に取り組んでいる。 ・現代の倫理的課題である生命倫理や環境倫理に対する関心を深め、それを自己の課題として追究し、現代に生きる人間としての在り方生き方について積極的に考察しようとしている。 ・現代の諸事象における倫理的課題の中から関心ある課題を選択し、自己の課題に結び付けて意欲的に追究しようとしている。 ・グローバル化した社会や現代社会における豊かさの内容について自らの倫理的課題として考察しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・20世紀を中心とした思想について社会生活や自己との関わり、国際社会との関係など多面的・多角的な考察をしている。 ・現代に生きる人間が直面するであろう倫理的課題について他者とともに生きる自己の生き方として主体的で公正な判断をしている。 ・生命倫理や環境倫理などの現代の諸課題について多面的・多角的に考察し、広い視野に立って公正な判断をしている。 ・現代の家族の諸問題や情報社会に対する視点を自己の課題として多面的・多角的に考察し、公正な判断をしている。 ・今日の社会状況について国際社会と自己との関わりや視点から人間としての在り方生き方について探究し、主体的かつ公正な判断をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代思想の持つ人間観などについて自己の課題となげ、学習に必要な情報などを主体的かつ適切に選択して活用している。 ・近代思想をはじめとする自然観などについて、現代との関わりから倫理的な視点を通して追究・考察した過程をまとめたり、発表したりすることができる。 ・数多くの情報の中から学習に役立つ情報をインターネットなどを利用し、適切に選択し、活用するとともに、考察の過程や結果を適切に表現することができる。 ・選択した課題について資料の収集を様々なメディアを通して行うとともに、追究した課題について発表や討論をすることができる。 ・課題を追究しながら、考察した過程や結果をレポートとしてまとめるとともに、発表や討論をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる人間として主体的なはたらきをするために具体的な知識を身に付けている。 ・自然と人間との関わり、さらに科学技術の発達の意義、新しい考え方の問題点などを理解し、自己の人格形成に必要な知識を身に付けている。 ・現代の倫理的課題である生命倫理、環境倫理について自己の課題として理解し、人格形成に生かす知識を習得している。 ・変容する家族の実態やメディア・リテラシーなどについて、社会生活及び自己との関わりから、人格形成のための知識を習得している。 ・人類の福祉、国際協力、国際協調などについて、自己の生き方とつなげて理解し、基本的な知識を習得している。
--	---	--	--	---